

地震に遭遇

北清 康二

ドン！いきなりでした。建物の発する音と共に、揺れを感じました。

地震だ！12月18日午前8時11分。反射的に腕時計で時間を確認していました。瞬間、頭を横切ったのは2011年にニュージーランドで起きたカンタベリー地震でした。

閲読の授業を始めて間もない時です。先生と、同級生二人と顔を見合わせました。「地震ですね！」私。「外に出た方がいいかな？」先生。「そうですね、次が来るかもしれませんし。」私。ということで、早速1階出口の外庭に避難しました。

避難してきたのは、高級班閲読課の4人と2階の「資産設備管理課」の職員一人だけでした。

「震源地は何処か知りたいですね。日本だと、5分以内にはTV報道されますが。」

「中国では、どの位だろう。30分から1時間後位かな？」資産設備管理の職員。

30分経過。寒風の吹く外庭に残ったのは、私と、閲読の張先生と、遅れて出勤してきた「資産設備管理課」のもう一人を加えた4人だけでした。

「古い建物は、震度6だと倒壊するだろう。この留学生寮の建物も古い。」などと不気味なことを資材設備管理課の職員が言います。

1時間ほど、寒風の中で様子を見てから教室に戻りました。

閲読の先生は、漢族ですがウルムチで育ったということで、地震を経験しているようで、今回の地震に反応していました。

地震国から来た日本人からみると、地震の少ない中国に住む中国人の地震に対する無関心さに驚かされます。

午後、遭遇した地震についてネットで調べてみました。「山西省地震局」のページを訪ねました。ここに、本日の地震の震源地の記載がありました。これをみると、地震発生10分以内には速報がネットに記載されるようです。

2012年12月18日太原市市辖区发生3.0级地震

2012年12月18日08时17分46秒 来源： 作者：

12月18日08时11分，在山西省太原市市辖区(北纬37.9度，东经112.5度)发生3.0级地震，

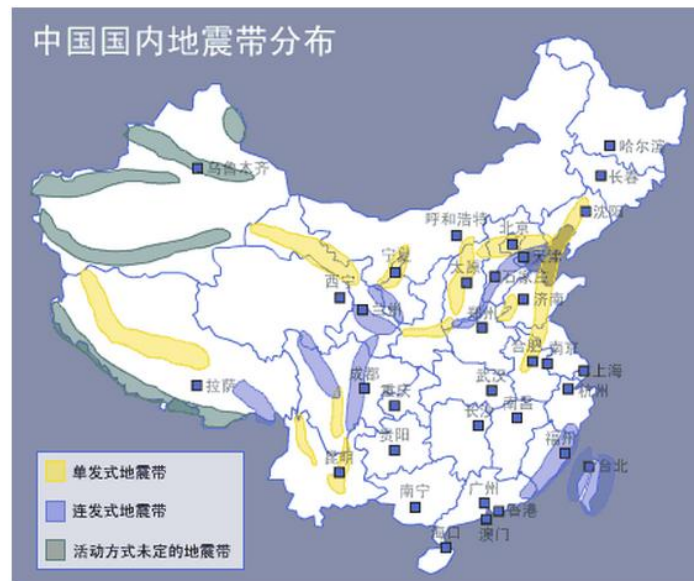
緯度、経度情報を基に震源地の場所を調べてみました。学院から12kmほどしか離れていません。P波の伝播速度は秒速5-7km程度と言われますから発生から最短で1.5秒後には到達していたこととなります。



次の日、聴力課の先生と休憩時間に、昨日の地震を話題にすると、次のような事を教えてくれました。中国の有名な、地震学者が「中国には4本の地震帯があり、その内3本は既に大地震を引き起こしていると言っている・・・。」まだ地震を起こしていない残り1本の地震帯は太原を含んでいる。更に、太原の地下は石炭採掘の坑道が縦横に走り、穴だらけだと続けます。

調べると、記録が始まってから、この地震帯では4.7級以上の地震が160回程度。そのうち、7-7.9級が7回、8級以上の地震が2回起きているそうです。

8級以上の地震はいずれも太原と西安を結ぶ線の間で発生しているようです。



住んでいる学院の建物がどのように作られているか、3階の東側から垣間見ることができます。レンガを積み上げて作られています。どの程度の耐震性があるのでしょうか？



過去が一番近い8級の地震地洪同県までの距離は190km程度。P波が7km、S波が4kmで伝播してくるとすると、最初の縦揺れを感じてから20秒後には横揺れがくることとなります。3階の部屋から正門を出るギリギリの秒数です。しかし、1階の扉は、午後11時以降は固く施錠されます。2階の教室に使っている応接室は、窓が開きます。窓にぶら下がり飛び降りるのが一番のようです。

今回は、幸い中の幸いだった。生じるかもしれないリスクと遭遇する被害を想定して、予め対応を考えておくことが大切だと思う次第です。